

# 女性教諭進出率 関西は低調

## 大阪15位

富山県が全国一位、関西のトップは京都府の十一位。日本橋女学館短大（千葉県柏市）の池木清教授が全国の公立の小学校から高校までの女性教諭の進出率を計算、こんな結果を出した。関西勢では大阪府が十五位、兵庫県が二十七位に甘んじたほか、和歌山県は十七位、奈良県は三十一位とばつとしない結果だった。（袖中陽一）

池木教授はまず各都道府県の小学校において女性校長率、女性教頭率、女性教諭率を算出。この三つの数字の平均値を出す。中学校、高校においても同様の平均値を出し、その三つの平均値を足して三で割る。こうして出した数字を総合女性進出率と名づけた。単に女性の教員がどれだけいるかではなく、管理職としてどれだけ登用されているかという面も考え合わせた数字だ。

その結果、ベスト5は、①富山県（二九・六％）②高知県（二八・五％）③香川県（二六・四％）④広島県（二四・一％）⑤栃木県（二三・七％）となった。東京都は七位に入った。

逆にワースト5は①北海道（二〇・八％）②長野（一一・八％）③鹿児島（一一・七％）④熊本

池木清・日本橋女学館短大教授



「大阪府はもっと女性校長・教頭の登用に努力すべき」などと話す池木清・日本橋女学館短大教授

### 「教育委員会の人権意識に問題」

## 小学校での改善急務

（一三・九％）⑤宮崎（一四・〇％）で、九州から三県が入った。面積が大きいところは都市部が少なく、女性が赴任しにくいところも多いことから女性の進出率が低い傾向があり、全国で最低の北海道などはその面が極端に出た結果となった。

関西の府県については「京都市は都市部でない地域も多いのに健闘している」と池木教授は評価。関西の府県については「京都市の勤め続けやすいか、管理職になるための試験を受けやすい雰囲気

## 女性教諭進出率 低調

か、などの要因が考えられるという。

調査結果を見て、池木教授は「都道府県によって女性の能力に大差があるわけではないのに、こんなに格差があるのはおかしい。公立学校の人事権をほぼ全面的に握っている都道府県の教育委員会の人権意識に問題があると考えざるをえない」と話し、「もっと女性が活躍できる環境をつくっていくべき。具体的には、平均より下の自治体はまず平均値を目標にするという方針で女性の登用を図るべき」と言う。

欧米と比較してみても、日本の数字は低い。例えば英国の小学校の女性教諭率は八三％。これに対して日本の公立小学校の女性教諭率は五九・五％だ。この傾向は英国だけでなく、欧米一般についてもいえる。

「学校の校長が男ばかりだと、男のほうが女よりえらいという固定観念を子どもは持ってしまふ。男女平等という観念を教えるより、実際に男の校長もいたり女の校長もいたりすることが本当の意味の教育。子どもが小さいときのほうが教育効果が高いので、特に小学校で女性の校長や教頭がさらに増えることが望ましい」と池木教授は話している。

## 情報 Essence